



本プロジェクトの研究成果(H22-H24)	
対象地 セーフガード	東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカにおける熱帯植生の二次遷移過程（休閑林、荒廃林地、伐採跡地など）
伝統的知識の尊重	サブテーマ1 伝統的知識に基づいた地域住民の熱帯林生態資源の利用評価 *様々な森林資源の利用が伝統的知識のもと利用されている *首都からの遠隔地では収入はNTFPsに依存 *伝統的な森林資源の利用に、新たな商品作物が導入され、土地利用が変化
生物多様性の保全	サブテーマ2 熱帯林生態系資源のセミドメスティケーション化の開発 *過剰な採取のため、有用な植物の枯渇に対して、アグロフォレストリーの形態である二次遷移におけるセミドメスティケーションの試み（カブルンカシステム：ブラジル） *市場に出回る動物資源は遠隔地から、都市へ物流し、さらに外国へ輸出されている
生態資源利用における地域住民の参加	サブテーマ3 地域住民の森林生態資源利用の住民参加システムの検討 *村落の歴史的背景（移住・在来）が住民参加を考える上で重要 *コミュニティーフォレストリーは住民参加における重要な形態 *ネパールにおける住民自らの共有林管理システムが最も有効
地域住民のインセンティブとREDD+	サブテーマ4 地域住民のREDD+へのインセンティブと森林生態資源利用によるカーボンクレジットの評価 *セミドメスティケーション対象植物を選択、カブルンカシステムを応用、コミュニティー・フォレストリーのシステムを採用 *休閑期間を伝統的な7年周期に戻すことにより、ラオス国全体では、約40億Mg/yrの大量のカーボンクレジットが創出 *斜面における土地利用において、森林の維持が最も重要であるが、焼き畑耕作は必ずしも炭素放出減とはならない